

第8回 ヨウ素利用研究国際シンポジウム

プログラム

日 時 : 平成17年10月4日(火) 9:30 ~ 17:00

場 所 : 千葉大学けやき会館

主 催 : ヨウ素利用研究会、千葉大学

共 催 : (社)日本化学会、日本ヨード工業会

協 賛 : (社)日本薬学会、(社)有機合成化学協会、日本ヨード懇話会、
(財)千葉県産業振興センター、千葉工業大学技術・情報センター

< 部 ~ 部:講演 > 1F大ホール

No.	予定時間	分類	講演テーマ	研究発表者	所属団体
	9:30 ~ 9:35	挨拶	古在 豊樹 (千葉大学学長)		
部: (座長:海宝 龍夫)					
	9:35 ~ 10:25	招待講演	Contrast Agent for Computed Tomography, from the Past to the Future	Hanns-Joachim Weinmann	ドイツ: Schering AG
部 (座長:北村 二雄)					
	10:25 ~ 10:40	一般講演	連続Michael付加 カルベン転位 環化反応: Wipfチアゾール合成反応機構	宮本和範	徳島大学薬学部
	10:40 ~ 10:55	一般講演	五塩化タンタル - ヨウ化物イオン触媒を用いた過酸化水素による脱チオアセタール化	桐原正之	静岡理科大学理工学部
	10:55 ~ 11:10	一般講演	アルキニルリチウム触媒による1, -ジヨードアルキンの環化異性化反応	原田俊郎	京都工芸繊維大学工芸学部
	11:10 ~ 11:25	一般講演	イリジウム - NaI錯体を用いた動的速度論的分割を伴うアンチ選択的触媒的不斉水素化反応の開発	牧野一石	千葉大学大学院薬学研究院
部: (座長:小倉 克之)					
	11:25 ~ 12:15	招待講演	ヨウ素によりメデイエイトされる酸化・還元	田中秀雄	岡山大学工学部

< 部:ポスター発表、併設展示 > 3Fレセプションホール

*時 間 ; 展示 12:20 ~ 14:10.....発表と質疑 (12:50 ~ 14:10)					
A	一般	発表件数 16件	物理化学、有機反応理論、分析化学、触媒化学、分子生物学等		
			資源、環境、エネルギー、エンジニアリング、プロセッシング等		
			利用、応用、実用品の開発と製品紹介(医薬品、殺菌消毒剤等)		
W	FIU ワーキンググループ	発表件数 11件	生物圏におけるヨウ素の働きとその循環機構		
	併設展示		ヨウ素製品等の展示、ヨウ素分析機器等の展示 (時間; 随時)		

< 部 ~ 部:講演 > 1F大ホール

No.	予定時間	分類	講演テーマ	研究発表者	所属団体
部: (座長:松田 立人)					
	14:20 ~ 15:10	招待講演	ヨウ素原子移動を鍵とする合成反応	柳 日馨	大阪府立大学大学院
部: (座長:落合 正仁)					
	15:10 ~ 15:25	一般講演	電解ヨウ素陽イオンとマイクロミキサを用いる芳香族モノヨウ素化物の選択的合成	緑川晃二	日宝化学(株)
	15:25 ~ 15:40	一般講演	t-BuOIを活用するスルホンアミドとオレフィンからの新規アジリジン合成法	南方聖司	大阪大学大学院工学研究科
	15:40 ~ 15:55	一般講演	ヨウ化水素によるキノリン環生成反応とその特異性	松本祥治	千葉大学工学部 共生応用化学科
	15:55 ~ 16:10	一般講演	ジアザボルフィリン鉄(III) ヨウ素錯体の構造と磁気的性質	大胡恵樹	東邦大学医学部化学研究室
部: (座長:北 泰行)					
	16:10 ~ 17:00	招待講演	Applications of Hypervalent Iodine in Natural Product Synthesis	Andreas Kirschning	ドイツ: ハノーバー大学

各公演時間は、質疑応答の時間5分を含みます。

ポスター発表プログラム <一般A, FIUワーキンググループW>

会場：千葉大学けやき会館(3Fレセプションホール) - 開場 12 時 20 分 発表と質疑 12 時 50 分 ~ 14 時 10 分

No.	発表タイトル	発表者・研究者	所属団体
A01	フルオロアルケニルヨードニウム塩を前駆体とするフルオロアルキリデンカルベンの発生とその反応	長船夏奈子、吉田雅紀、仙北久典、原正治	北大院・工
A02	単体ヨウ素を用いた第1級アルコールからニトリルへの直接変換と関連反応	森 直士、 飯田慎平、 東郷秀雄	千葉大・理
A03	(ジアセトキシヨード)アレーンの簡便合成法	Md. Delwar Hossain、 北村二雄	佐賀大・理工
A04	テトラフェニルメタン核を有する新規高リサイクル型超原子価ヨウ素反応剤を用いたケトンの位置選択的反応	土肥寿文、 丸山明伸、 吉村美咲、 森本功治、 北 泰行	阪大院・薬
A05	ヨウ素を触媒とした3-ヒドロキシ酸および1,3-ジオールの環化反応	笠嶋義夫 [†] 、 藤本 寛、 西田忠輔、 三野 孝、 坂本昌巳、 藤田 力	千葉工大・工 [†] 、 千葉大・工
A06	ヒドラゾン - パラジウム触媒によるヨウ化アリアルールのMizoroki - Heck反応	三野 孝、 笹井陽介、 白江良章、 坂本昌巳、 藤田 力	千葉大・工
A07	ヨウ素化合物による重合の精密制御 - ヨウ素開始剤系によるリビングカチオンおよびラジカル重合と新規高分子材料の創成	澤本光男、 安藤 剛、 大内 誠	京大院・工
A08	ヨウ素を挿入したカーボンナノチューブの電子物性	北尾真司、 瀬戸 誠、 小林康浩、 高田実弥、 増田 亮 [†] 、 東谷口 聡 [†]	京大・原子炉、 京大・理 [†]
A09	キシログルカン - ヨウ素複合体の物理化学的特性に及ぼす主鎖・側鎖構造の影響	藤原孝之、 内田勝美、 矢島博文、 湯口宜明 [†] 、 白川真由美 ^{††}	東京理大・理、 産総研 [†] 、 大日本製薬(株) ^{††}
A10	ホール輸送材料およびヨウ素錯体の合成とそれらを用いる色素増感太陽電池の特性	長尾幸徳、 土屋昌俊、 小澤幸三	東京理大・理工
A11	高分子固体化色素増感太陽電池における各種色素の光電変換特性	長尾幸徳、 松下圭介、 濱美さと、 小澤幸三	東京理大・理工
A12	ヨウ素- β -CD包接体におけるホスト - ゲスト間相互作用	金子拓真、 大南賢亮、 小西健久、 藤川高志	千葉大院・自然科学
A13	写真感光材料を用いた金微粒子の調製条件の検討：沈着液のハロゲン組成の効果	陳 祥、 久下謙一 [†] 、 長谷川 朗 [†]	千葉大院・自然科学 千葉大・工 [†]
A14	像形成用光開始剤としてのヨウ素化合物	宮川信一	千葉大・工
A15	ヨードフォアを用いた新規なヨウ素含浸アルミニウム陽極酸化皮膜の作製	松本尚之、 橋本和明、 前嶋正受、 高谷松文、 戸田善朝	千葉工大・工
A16	濃厚溶液から作製されたPVA-ヨウ素錯体の固体 ¹³ CNMR解析	Hu YANG、 堀井文敬	京都大学化学研究所
W01	土壌および植物における無機態ヨウ素の化学形態変化	加藤翔太、 関本 均、 吉田 聡 [†]	宇都宮大・農、 放医研 [†]
W02	高度ヨウ素濃縮微細藻の単離	岩本浩二、 松沢敏弘、 中山剛、 白岩善博	筑波大院・生物科学
W03	高濃度ヨウ素海水における微生物群集の変動解析	秋山夕香子、 天知誠吾、 村松康行 [†] 、 篠山浩文、 藤井貴明	千葉大・園芸 学習院大・理 [†]
W04	微生物によるヨウ素の揮発、蓄積、酸化、還元反応	天知誠吾、 村松康行 [†] 、 藤井貴明	千葉大・園芸、 学習院大・理 [†]
W05	ヨウ素に富んだ鹹水および間隙水の産出と起源	村松康行、 土肥俊忠、 松本 良 [†] 、 武内里香 [†] 、 戸丸 仁 ^{††} 、 U. Fehn ^{††}	学習院大・理、 東大 [†] Rochester大 ^{††}
W06	AMSによる日本各地の土壌中のヨウ素129濃度の測定	松崎浩之、 村松康行 [†] 、 加藤和浩、 高田ゆかり [†]	東大院・工、 学習院大・理 [†]
W07	チェルノブイリ周辺土壌に含まれるヨウ素-127及びヨウ素-129	S.K. SAHOO、 村松康行 [†] 、 松崎浩之 ^{††} 、 吉田 聡	放医研、 学習院大・理 [†] 東大院・工 ^{††}
W08	環境試料中の ¹²⁹ I測定 加速器質量分析法と中性子放射化分析法の比較	鈴木崇史、 伴場 滋、 磯貝啓介、 北村敏勝、 甲 昭二、 天野 光	日本原子力研究所 むつ事業所
W09	ヨウ素吸着樹脂を用いた培養液殺菌技術の開発に関する研究	小粥理絵、 山口秀幸 [†] 、 篠原 温、 丸尾達、 雨宮良幹	千葉大・園芸 関東天然瓦斯開発(株) [†]
W10	培養液へのヨウ素添加がトマト、ホウレンソウの生育およびヨウ素蓄積に及ぼす影響	権田かおり、 山口秀幸 [†] 、 篠原 温、 丸尾達	千葉大・園芸 関東天然瓦斯開発(株) [†]
W11	千葉県産海藻からのヨウ素含有成分の探索	山本俊輔、 當銘一文、 石橋正己、 宮田昌彦 [†]	千葉大院・薬 千葉県中央博 [†]

17:15 ~ 19:00 懇親会 (けやき会館3Fレセプションホール)